カトリック 福岡教区報

杉原寛信使徒座管理者認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092-522-4059
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部70円

新しい年に豊かな収穫を願う

カテドラルで1月1日にミサ


ミサを司式した杉原神父（右）と森山神父（左）

1月1日（水）、「神の母聖マリア」の祭日にカテドラル大名町教会でミサが捧げられた。この日は毎年、司教が司式し、福岡教区の1年の歩みのために祈るミサである。今年は司教空位のため、使徒座管理者で大名町教会主任司祭の杉原寛信神父と福岡コレジオ院長の森山信三神父の二人が共同司式した。

森山神父は説教の中で、「世界平和の日」（2020年1月1日）教皇メッセージを取り上げ、2020年を過ごす信徒たちに、丁寧に信仰者としての生き方を促した。

希望のうちに、兄弟愛をもって耳を傾け、交わりを通して歩み、人のみならず自然への尊敬を忘れることなく、様々な出会いを深めていくことの大切さを説いた。

参加信徒はお正月休みで里帰り中の人も多く、杉原神父は「それぞれの家族にとって信仰の交わり、一致のひと時となったのでは」と振り返る。

ミサにはとても興味深い参列者がいた。昨年、10月19日から12月3日にかけて開催された「教皇フランシスコ来日記念企画展」に足を運んでくれた非キリスト者の方が、何か呼びかけを聞かれたようで、「今年は大宰府への初詣ではなく、ここ（大名町教会）に来てみました」と。

教会関係者は「蒔かれた種が小さな芽を出したのかも。今年、豊かな収穫のために地道に捧げ進んでいけたら…」と語る。

チョン神学生が助祭に

韓国大邱大司教区カテドラルにて


大邱大司教区カテドラルでの叙階式

チョン・ウォンチョル助祭


カテドラルのミサに集った人々

2019年12月27日（金）、韓国大邱（テグ）大司教区カテドラルのボムオ大聖堂にて、2000人以上の信徒が聖堂を埋め尽くし、10人の司祭と7人の助祭叙階式が行われた。叙階者の中には、大邱教区から長崎、福岡教区にそれぞれ派遣されている南時眞（ナム・シジン）、鄭元喆（チョン・ウォンチョル）両神学生の助祭叙階が含まれており、日本からも司祭、信徒30人近くが参加し、ともに祈りを捧げた。

式は大邱大司教区のタデオ・チョ・ファンギル大司教の主司式で、チャン・シンホ補佐司教、また長崎から高見三明大司教、中村倫明補佐司教、及び福岡教区から使徒座管理者の杉原寛信神父、そして韓国の250人近い司祭が参加して、3時間にも及ぶ荘厳な式となった。

福岡教区で将来働くことになるチョン神学生も他の叙階者とともに新しいダルマチカに身を包み、助祭に叙階された。式の中で聖歌隊は荘厳なパイプオルガンの伴奏に合わせて韓国の聖歌はもちろん、グレゴリオ聖歌や親しみやすい聖歌を次々と歌い、信徒を魅了した。また100人にも及ぶ婦人らが、色とりどりの華やかな韓国の民族衣装で聖体拝領の案内役などミサの奉仕をし、花を添えた。

式の終わりに日本から参加した2人の司教及び杉原神父に花束の贈呈があり、高見大司教は、韓国から日本に派遣してくださった教区、両親に感謝の言葉を述べた。通訳を担当したキム・ボム神父（長崎教区）のユーモアあふれる通訳が会衆を沸かせた。

式後、すべての新助祭、司祭が一人ずつ紹介される度ごとに、各小教区から参加した信徒が歓声を上げ、韓国教会の熱気を感じさせた。派遣の祝福では、まずずらりと並んだ新助祭、新司祭に大司教が祝福し、その後10人の新司祭が、ひざまずく司教、司祭団に祝福した姿が美しく印象的だった。ジョン助祭は、日本で助祭職を果たし、司祭叙階を受けることになる。

「第28回世界病者の日」教皇メッセージ

（2020年2月11日）

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」（マタイ11・28）

フランシスコ教皇は1月3日、「第28回世界病者の日」（「世界病者の日」については4面参照）のメッセージを発表した。要旨は以下の通り。

▶イエスは様々な病と脆さを抱える人に対して、ただ「わたしのもとに来なさい」と呼びかけられる。そして、憐れみと慰めを与えられる。

▶病者は「治療」だけでなく「ケア」が必要だ。病者は身体的だけでなく、様々な側面（人間関係、感情、知的・霊的レベル）において脅かされるように感じる。このため、愛による「ケア」が不可欠である。

▶教会は、良きサマリア人のたとえにある「宿屋」のような存在、すなわち病で苦しんでいる人々が受容と慰め、安息を感じることのできるような場所となることを望んでいる。

▶医療従事者は病者に奉仕するときに、「人間の尊厳」が「病」に優ることを忘れてはならない。いのちの始まりから終わりまで、それは変わらない。

▶戦争や紛争によって医療従事者や施設が攻撃、破壊されるようなことがあってはならない。

▶医療関係組織や政府が連帯して、貧しい人々も適切な医療を受けられるように努めなければならない。

※メッセージの全文（邦訳）はカトリック中央協議会ホームページに掲載予定。

2月26日　灰の水曜日（大斎・小斎）
四旬節がはじまります。
聖週間　4月5日～12日　　復活の主日　4月12日

2月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【世界共通】移住者の叫びに耳を傾ける

【日本の教会】子どもたち

時の話題

キリスト者の召命

昨今、司祭や修道者の召命の激減が危惧されている。キリスト者も人口も減少しているのだから心配ないという人もいるが、「全世界に行き、すべての人に福音を宣べ伝えなさい」（マルコ16章15節）というキリストの言葉を具現しようとするならば、今一度、召命について考える必要がある。

キリストは「神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れ」（ヘブライ人への手紙1章3節）であり、人の目に見える姿で現れた真の救い主である。わたしたちキリスト者はそう信じている。しかしキリスト者以外、誰がそう信じるだろうか。ではそれはキリスト者の「独り言」「盲信」なのだろうか。

それでもフランシスコ教皇は使徒的勧告『キリストは生きている』の中で「神はあなたが大好きなのです。…何があろうと決して疑ってはいけません」（112）と述べ、そして「このかた（キリスト）は生きている」（124）と言われる。キリスト者にとって、神そしてキリストとの関わりは、抽象的ではなく具体的に生きている方との関わりである。キリスト者はキリストとの人格的、実存的関わりから、「今を生きる力」を具体的に頂いている。

21世紀に神の現れを具体的に示し、感じ取らせるのはキリスト者の使命である。キリストは「来なさい。そうすればわかる。」（ヨハネ1章39節）とわたしたちを招く。キリスト者はキリストに従い、倣い、感じ、生き、そしてキリストを現代の人に具体的に示すように招かれている。「いまだかつて神を見た者はいない」（ヨハネ1章18節）。しかし神は御子を通して見える姿で現れた。そして今、その御子をこの時代に教え、示し、感じ取らせるのがキリスト者の使命であり召命である。

福岡カトリック神学院
大山　悟　神父

教区新ウェブサイト　「更なる宣教に向けて」　情報を共有し、活かそう！



新しいサイトのトップページ。このサイトのビジョン「みんなの涙につながり、みんなの笑顔に結ばれる」との言葉が記されている。

2019年11月の教皇来日に合わせて、福岡教区のウェブサイト（ホームページ）がリニューアルされました。まだ作成中のページも多数ありますが、教区内のイベント、教区からのお知らせ、教区報、主日の音声説教（YouTubeでの配信）など、最新の情報を発信しております。

また、これに合わせ、公式Facebookページ、YouTubeページも開設しています。「カトリック福岡司教区」で検索ください。

教区民お一人おひとりのためはもちろんのこと、教区民が「宣教」の意識をもって、必要な方々に情報を共有しながらご活用いただければ幸いです。

福岡教区ウェブサイト　http://fukuoka.catholic.jp/
各小教区のページ　http://fukuoka.catholic.jp/parish/〇〇〇〇/
〇〇〇〇にアルファベットで教会名を入れる。例えば荒尾教会の場合 /arao/ ↑

⇒2面に続く

みちくさ

「神父様、十字架を30個見つけたよ！」と喜んで話す園児達。実は、教会訪問の時に侍者をしてくれる子ども達なのだ。園長神父は教会訪問の時に、十字（架）の意味を教える。子ども達はその話を覚えてくれていて、十字架の印を得意になって探すのだ。着替えるために香部屋に入った侍者役の4人は、口をそろえてその数を報告したのである。「まだあるかも」と言いながら祭服を見せると、「あった、ここにも」と嬉しそうに祭服に触る。子ども達が聞く十字架の救いの話を体験によって知ることができたらと願うばかりである。そして、かつての幼い殉教者が、殺されると分かっていても、信仰を貫くために自分の十字架を探し当て、喜んでそれを抱き、接吻したという、その心意気が今の子ども達にも刻まれるようにと願いたい。日本の今は見える形での宗教的な迫害はない。しかし、悪の力はいろいろなものを使い、個人の心の拠り所（心の神殿）を襲い、崩そうと働きかける。そして神の方に向かおうとする心を捻じ曲げようとする。結果、弱い人間の心は悪の方に傾いたり、陥ったりして罪を犯してしまう。そんな時、十字架の救いを思い起こし、救い主に助けを求め、心を十字架に挙げることができたら、と思うのである▼四旬節に突入する。イエスの私達に対する一途な愛を思い、十字架から降り注ぐ救いの恵みに浴し、栄光の復活へと歩んで行こう。「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン」。今日も明日も唱え、十字を切る私達がイエスの救いの道をたどって行けますように。（S）

各地で新成人のお祝い
教会家族に守られて生きる

高宮教会（福岡地区）



教皇フランシスコは使徒的勧告『キリストは生きている』で、若者たちに「神はあなたが大好きなのです。人生に何があろうとも、決してこれを疑ってはいけません」と語りかける。教区内の各教会でもこのメッセージを伝えるべく、各小教区で新成人のお祝いが行われた。

高宮教会では1月12日の主日のミサの中で3人の新成人祝福式が行われた。3人の新成人の言葉と信徒会長からのメッセージを以下に紹介する。

「私の座右の銘である『夢は大空に、努力は足元に』という言葉がありますが、二十歳になり、これからもこの言葉を胸に、常に挑戦し続けて、努力をして行きたいです。」（レオ　井手浅樹）

「神様や両親、多くの方に見守られ無事に成人を迎えることができました。…これからは人のために役に立てるよう努力を重ねていきます。そして世界中では多くの問題を抱えています。問題が少しでも良い方向に向かうように私も祈りを捧げたいと思います。」（マリア・ルチア　内田桃花）

「今日まで見守ってくださった神様、神父様、両親、支えてくださった全ての方々には感謝の気持ちでいっぱいです。…幼い頃に教会学校で学んだことや経験したことは、かけがえのないものであり、今の自分の土台となり糧となっています。これから先も信仰の心を忘れることなく、神様と共に歩み、社会に貢献できる人間になれるよう努力していきたいと思います。」（ミカエル　白垣孝貴）

「成人おめでとう！『人間は自分しか果たしえない使命に招かれた存在』であるといわれます。成人を迎え、皆さん方の胸は希望にあふれ、意欲に満ちていることでしょう。私達は幸せに向かって創られた、かけがえのない尊い存在です。自己の尊さを傷つけること無く、更に気高い存在へと成長できますようにお祈りしています。」（高宮教会信徒会会長　阿部光喜）

佐賀教会（佐賀地区）

佐賀教会では、1月5日の主日のミサにおいて7人の新成人のお祝いが行われた。7人中6人はベトナムから技能実習生として来日している若者で、ベトナムの民族衣装であるアオザイを着てミサに参加する新成人もいた。

司祭からの問いかけに元気よく日本語で応え、新成人として祝ってもらう喜びと、大人になる責任感を感じているようだった。

ミサ後は信徒会館に場所を移してお祝いのパーティーを催し、マリア会の皆さんが用意してくれた手料理を食べながら、歓談したり歌を歌ったりして、みんなで新成人をお祝いした。日本人の新成人も「久しぶりに佐賀教会のミサに参加したけれど、たくさんの人にお祝いしてもらい、とても嬉しかったです」と声を弾ませ、初めて会ったベトナム人の若者の中に自然に溶け込んでいた。



今村教会（筑後地区）



今村教会では1月1日の元日、「神の母聖マリア」の祭日の10時のミサで新成人の祝いと祝福式を行った。

今年は大学生、専門学生、コレジオ神学生の3人が参加した。ミサの後、主任司祭の竹森勇神父が新成人を祝福して、お祝いの言葉と共に、350人の信徒に紹介した。

参加者の3人はそれぞれ、将来の抱負を語り、信徒一同から祝いと祝福の拍手を受けた。

福岡キリスト教一致祈祷集会
福音を宣べ伝える使命を共有



様々な教派からの司式者と参加者

1月19日（日）、カテドラル大名町教会でキリスト教一致祈祷集会が開催された。今年のテーマは「人々は大変親切にしてくれた」（使徒言行録28章2節参照）。

地中海のマルタ島とゴゾ島の諸教会からなるマルタ・エキュメニカル協議会によって準備された式文に沿って、福岡市内のキリスト教諸教派の信徒ら約150人が共に祈りを捧げた。

説教を務めた牧村元太郎牧師（日本基督教団）は、「キリストの様々な枝葉であり、福岡の地に派遣されている私たちが共に集うのは特別な喜び」であると語った。また、テーマとなった使徒言行録の個所をひも解きながら、初代教会において弟子たちが受けた恵み、彼らが行った証に私たちもつながり、「すべて造られたものに福音を宣べ伝える」という同じ使命を受けていると説いた。

祈祷会後には1階のロビーで簡単な茶話会が準備され、交わりを更に温めた。

オリンピックとキリスト教的生活 ①

レナト・フィリッピニ神父
（教区養成教化委員会委員長、聖ザベリオ宣教会）

今年は4年に一度のオリンピックの年にあたります。しかも東京での二回目の開催となり、全国の雰囲気はすでに高まっていることでしょう。

新約聖書のヘブライ人への手紙の12章の冒頭のところには次のように書かれてあります「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら」（1～2節）。この手紙を書いた人はもしかしたら、当時のオリンピックのようなスポーツイベントに参加したのではないでしょうか。もともと、オリンピックの発祥は古代ギリシャですから…。

今回を含め2回にわたって、この「オリンピック的」な箇所を読み合わせながら、キリスト教的生活とその実践の土壌である「日々の暮らし」を照らし合わせ、振り返ってみたいと思います。

まず「このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上」という部分です。

ご存知のようにバチカンの前には広場があり、その周りには大理石の柱の回廊があって、その上に、代々の聖人たちの巨大な像がたくさん並んでいます。しかし、「おびただしい証人の群れ」という表現は聖人のことというより、キリスト教の歴史の中で、福音的価値観にもとづいて自分の人生をかけた一般の信者が、数知れないという事実を表していると思います。その中には、人間として、また信者として私たちの成長と養成に貢献し、協力してくれた信仰の先輩たち、殉教者、また両親をはじめ、尊敬する人たちがいるでしょう。このような人々が私たち一人ひとりを囲んで応援し、エールをおくってくれる人生と信仰の先輩たちです。

熊本地区で子どもたちのクリスマスキャンプ
手作りの祈りの冊子を作成



冊子の作成に熱心に取り組む子どもたち

12月26日(木)から27日(金)にかけて、熊本地区宣教司牧評議会(会長＝櫻井尚明神父)主催の「子どもたちのクリスマスキャンプ」が手取教会で行われた。テーマを「いのり」として、熊本市内と南宮崎教会からの高校生以下の子どもたち32人を迎えた。指導司祭はシルバノ神父（菊池教会）、トゥルコ神父（島崎教会）、キム神父（武蔵ヶ丘教会）と櫻井神父（手取教会）で、3グループに分かれた参加者に2人ずつリーダーがついた。

内容として、祈りについて3つの講話が行われ、手作りの「祈りの冊子」を完成していくものであった。初日の講話と作業と泊りは信徒会館で行われた。二日目は、まとめの作業を終えてから聖堂でミサ。キム神父の説教は問答形式で、「祈りとは…神様との対話…。毎日『主の祈り』を一回でもいいですから心を込めて祈ること。神様が一緒におられることを信じること。信じた上で心を込めて唱えることが素晴らしい祈りです」などが話された。

終わりに「〝手作りの祈りの冊子〟を家に持ち帰って毎日祈るように。夏のキャンプにも持ってきてください」と話があり、「夏のキャンプに参加する人？」と問いかけると、全員が手を挙げた。参加者の積極的に取り組む姿勢が印象的であった。今回の実りあるクリスマスキャンプを夏のキャンプへ繋げたい。

（報告＝手取教会　小野豊和）

教区新ウェブサイト　「更なる宣教に向けて」
～各種協力のお願い～

新しいウェブサイトを充実させ、持続させていくためには皆さまの協力が不可欠です。福岡教区の福音宣教のために皆さまの賜物を分かち合ってくださるよう、お願いいたします。インターネット、ホームページに関する知識は必ずしも必要ではありません。

＜素材・技術提供＞
写真・イラスト・文章などの素材、編集・動画制作・写真撮影・各国語翻訳などの技術提供。取材をしてくださる「特派員」も募集中。

＜情報提供＞
各種集い、講演会、イベント、ボランティア活動に関する情報をお寄せください。また、教区報、ホームページのために取材してほしいという情報も募集中です。

ご協力の申し出、問い合わせは
⇒メール　fukuokadiocese@gmail.com
ＦＡＸ　０９２・５２３・２１５２

【講演会・講習会・黙想会のお知らせ】　講師・指導司祭：来住英俊神父（御受難修道会）
ザビエル聖堂講演会　2月22日（土）14～16時「バベットの晩餐会」（映画の再現）
入場無料、申込不要　3月14日（土）14～16時「キリスト教はなぜイエスの死を重視するのか」
◆黙想会と講習会（参加費 10,000 円、定員 15 人、要申込〆切開催 1 週間前）
2月8日（土）～9日（日）　祈りの講習会「お願いの祈り＝とりなしの祈り」
2月29日（土）～3月1日（日）　レクチオ・ディヴィナによる黙想会
3月7日（土）～8日（日）　講習会「詩編の祈り」
カトリック御受難修道会・福岡黙想の家
811-4155　宗像市名残1056-1　Tel 0940-32-3222（9:30～16:30）
Fax 0940-32-3385　E-メール　f-mokuso@fmokusou.com
PRAYER GROVE MUNAKATA

ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
ＴＥＬ 092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

講演会「人生を変える出会いの力 ～闇から光へ～」
主は、私にはどのような呼びかけを？


講演した五十嵐氏

新年を迎えた喜びも冷めきれぬ1月12日（日）13時より、カテドラル大名町教会でNPO法人マザーハウス理事長、五十嵐弘志氏の講演会が開かれた。

五十嵐さんは自らが元受刑者（前科3犯　受刑歴約20年）であり、NPO法人マザーハウスは受刑者の回復と再犯防止、社会復帰の支援を目的に、五十嵐さんが立ち上げたものである。

自身の生い立ちから犯罪を犯し刑に服した人生を率直に語り、獄中での出会いから聖書を読むようになったこと、そして「弘志、弘志、なぜ私に罪を犯すのか」との主の呼びかけを聞き回心に到ったことを熱く分かち合った。更にその主の呼びかけに応え、現在の活動に人生を捧げていることなど、優しい語り口で、そして時折、体全体から溢れ出る思いを熱く語られる姿に、聴衆は「流れ出る涙を抑えることができなかった」と言う。

フランシスコ教皇が、「すべてのいのちを守るために～PROTECT ALL LIFE」の思いで来日期間中に私たちに語られたことを、主に素直に向かい合うことで、すでに実践している五十嵐さん。

参加者は「私たちがどのように歩んでいかねばならないのかを強く考えさせられた講演会でした。主は私にはどのような呼びかけをされているのか、心の耳をとぎすまし日々の生活を送っていきたいと思います」と感想を述べた。

五十嵐さんは「いのちを守る行動を起こすのに、何を恐れているのでしょうか」と語りかけた。

NPO法人マザーハウスの支援方法には通常の献金の他、「マリアコーヒー」の購入（4面広告参照）、古本募金、文通ボランティアなどがある。各種詳細はNPO法人のホームページ参照。https://motherhouse-jp.org/

佐賀地区宣教司牧評議会
新しい年もひとつになって


乾杯ではじまった新年会

1月12日（日）、佐賀地区宣教司牧評議会（会長＝下町豊重師）の新年会が旧多久カトリック幼稚園園舎で行われた。この日は今年最初の評議会で各小教区、修道会などの評議員が集まり、午後2時から今年度の行事の反省点や新年度の活動計画や課題について話し合われた。

その後、別室で会議が行われていた地区女性の会のメンバーも加わって立食形式による新年会となった。この新年会は宣教司牧評議会発足以来、地区の司祭、修道者、信徒の親睦を目的として毎年1月の評議会に合わせて行われているもので、テーブル上には各小教区、修道会から持ち寄ったおにぎり、スパゲッティ、シチューなど手作りの料理がたくさん並べられ、参加者たちは思い思いに料理を手にとってアットホームな雰囲気で歓談がはずんだ。途中からはカラオケによる歌で盛り上がって楽しいひとときとなり、今年も地区でひとつになって行動していく決意を新たにした。

聖マリア病院
筑後地区
患者と職員、皆でクリスマス

去る12月25日（水）、聖マリアグループ7法人による第67回合同クリスマスが聖マリア病院で行われた。

聖マリア病院では、「患者さんと職員皆でクリスマスを祝う」という当院創立時から続く大切な行事として毎年恒例で開催されている。

当日は、まず明光学園の生徒によるクワイアチャイムの演奏が行われ、集まった人たちは美しい音色に聞き入っていた。その後、病院内にある雪の聖母聖堂で、クリスマスのミサが行われた。当法人チャプレンのジュセッペ・ピアッツィニ神父（ミラノ外国宣教会）と久留米教会の宮﨑保司神父をはじめとして、近隣小教区教会より駆け付けた9人の司祭と関係者で聖堂は一杯になった。

宮﨑神父は説教の中で、過去の赴任地で経験した一人の信者から広がっていった信仰について述べ、「主をたたえる信仰が平和をもたらし、ゆるしや希望が与えられる世に心を留めながらクリスマスを祝いましょう」と語り掛けた。

ミサ終了後のキャンドルサービスでは、各法人の関係者で結成された聖歌隊の聖歌が響く中、9つのグループに分かれた司祭たちによってクリスマスケーキとカードが配られ、入院患者・入所者の方々に喜んでもらうことができた。

当日はあいにくの雨模様だったが心温まる穏やかな合同クリスマスとなった。（報告＝聖マリア病院チャプレン室・石橋ゆつき）


病院内の雪の聖母聖堂で行われたクリスマスミサ

マルグリット生誕400周年記念ミサ
「ご訪問の精神」に倣い奉仕する


CNDのシスター達とミサを司式した司祭

1月12日（日）、戸畑教会でコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会（CND）の創立者、聖マルグリット・ブールジョワの生誕400周年を記念するミサが行われ、その中でシスター碓井明子が終生誓願宣立を行った。

ミサは、戸畑教会主任司祭の江夏國彦師、イエズス会の塩谷惠策師により執り行われ、多くの教会より信徒、明治学園関係者、CNDのシスターとアソシエートが参列した。

マルグリットは、1620年フランスに生まれ、33歳の時、今のカナダでの宣教に招かれ、困難な航海の末、ヴィル・マリー（現モントリオール）に到着した。当初は、兵士や移民のお世話に明け暮れ、1658年、初めて学校を開き、フランス人の子女だけでなく先住民の子女や若い女性の職業教育をも行った。彼女は、必要とされるところへはどこへでも出かけるため、「囲いをもたない」修道会、CNDを創立した。

マルグリットは、幾度も大西洋を渡り、人々を支え、励ましてカナダの建国と発展に具体的に関わり、1982年、教皇ヨハネ・パウロ2世により列聖された。

シスター碓井は参列者の見守る中、神と人々への奉仕のため生涯を奉献する誓願を宣立し、その後、総長のアグネス・キャンベル修道女より「受け入れのことば」を受け、これにより正式的にCND会員となった。

今後も、CNDのシスターとアソシエートは、マルグリットの「ご訪問の精神」に倣い、神と人々への奉仕につくすことができるよう恵みを願って祈った。

（報告＝CND　Sr.伊達幸子）

教皇訪日のあと
笹丘教会　松尾緑

昨年末の12月29日、フランシスコ教皇の訪日を振り返る黙想会に参加した。

各々でワークシートを使った振り返り、祈りの時間をもった後に分かち合いという流れで気負わず取り組めるものだったが、ワークシート最初の項目「教皇来日を通して心に留まったことば、もしくは体験」で思いのほか難儀した。

新聞やテレビの報道、来日記念企画展や教皇ミサで多くの言葉や体験を得たと思っていたのに、いざ書こうとすると何も出てこない。自分の記憶力に落胆していたとき、「貧しい人たち」という言葉を思い出した。

パパ様、当時のベルゴリオ枢機卿が教皇に選出されたときにその言葉が心に響き、「フランシスコ」の名前が浮かんだということだった。パパ様の発言や行動、訪日のテーマ「すべてのいのちを守るため」の源のようで、とても腑に落ちると思ったのだった。

糸口を見つけてからは順調に進み、未信者を含む8人の青年たちと共に祈り、分かち合ったささやかな時間はとても貴重だった。

今回頂いた大きなお恵みについてじっくり考え、どう活かすかを探る助けとなる機会を設けてくださった方々、ともに集ってくださった方々に感謝。

自由席
◆◆原稿は400字程度
◆投稿先：福岡カトリック司教館　教区報係り宛
FAX092・523・2152
メール cdf-kouhou@nifty.com
皆さんの声をお待ちしております。

BOOK 読みは専科

☆すべてのいのちを守るため
――教皇フランシスコ訪日講話集



2019年11月23日から26日にかけての教皇フランシスコの日本司牧訪問中に行われた10の公式スピーチに加え、旅行前のビデオメッセージ、帰途の機中での記者会見、サンピエトロ広場での一般謁見における振り返りを収録。巻末には滞日中の教皇を追った、詩人・批評家の若松英輔による特別寄稿を収載。

カトリック中央協議会発行
価格1100円＋税

◇　◇　◇

☆君へ、そして君のお母さんへ



西経一著

男子中高ミッション・スクールの校長である著者が、思春期・青春期真っただ中の若者たちへ、そして思春期・青春期の子どもを持つ父親、母親に贈る人生応援メッセージ。ユーモアたっぷりの優しい言葉は読む人の心を潤す。

サンパウロ発行
税込価格1650円

不動産全般／売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
㈱ジャパン・スマイルか
代表取締役　マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092－761－8800
http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山7-91　TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社　代表：エリザベト熊谷

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社　森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

本との出会い　人との出会い　神との出会い
セント・ポール FUKUOKA
キリスト教書籍・信心用具・ビデオ・DVD・CD
福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F
平日／AM10時30分～PM5時
日曜／AM11時～PM2時（定休日 水曜・祝日）
TEL 092(741)4588　FAX 092(741)4601
URL:http://www.pauline.or.jp

年間目標　信じる喜びから伝える喜びへ

2月11日　世界病者の日

「世界病者の日」についての説明を『カトリック教会情報ハンドブック2020』より、下記に引用いたします。

聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、1984年2月11日(ルルドの聖母の記念日)に使徒的書簡『サルヴィフィチ・ドローリス―苦しみのキリスト教的意味』を発表し、翌年の2月11日には、教皇庁医療使徒職委員会(現・保健従事者評議会)を開設しました。そして1993年からこの日は「世界病者の日」と定められ、毎年教皇メッセージが発表されています。

病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な助けを得られるように、カトリックの医療関係者に対してだけでなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。医療使徒職組織の設立、ボランティア活動の支援、医療関係者の倫理的霊的養成、病者や苦しんでいる人への宗教的な助けなども重要な課題です。

※2020年のメッセージの要約は本紙1面に掲載しています。

福岡地区カトリック女性の会主催　**講演&学びの会**

日　時：2月15日(土) 10時～15時
場　所：カトリック大名町教会
講　演：阿部仲麻呂神父（サレジオ会）
「地球はひとつの家・人類はひとつの家族」
出前講座：「食品ロス」その食品、ほんとうに捨てるの？
問合せ：☎090・1084・2955 川原

どなたでも参加可／申込不要

講演会　**これからどうする**
－教皇フランシスコの呼びかけ－

日　時：3月1日（日）14時～16時
場　所：大名町教会
講　師：山元眞神父（小郡・鳥栖教会主任）
主　催：福岡教区信徒使徒職協議会

～すべてのいのちを守るため～
『こうのとりのゆりかご』　支援のお願い

教区本部事務局より標記の件について、各小教区、修道院、カトリック教育機関にお願いをお送りしております。

熊本にある慈恵病院はカトリックの愛と献身の精神により、またすべてのいのちを守るという観点から病院内に『こうのとりのゆりかご』を2007年に開設し、これまでに多くのいのちを守ってきました。それらの趣旨をご理解いただき、またお送りしている「こうのとりのゆりかごだより」をご覧いただき、ご支援のご協力をお願いいたします。

『こうのとりのゆりかご』については下記ホームページでもご覧いただけます。

http://jikei-hp.or.jp/cradle-of-the-stork1/

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案　内　板　会合と催し

福岡黙想の家ご案内　1・2月

2月　1日(土)　ロザリオの会
8日(土)～9日(日)　祈りの講習会(募集中・2面参照)
10日(月)～11日(火)聖マリア在俗会
10日(月)～13日(木)九州説教セミナー
15日(土)～16日(日)JSEC研修
17日(月)～23日(日)福岡カトリック神学院叙階準備黙想会
29日(土)～3月1日(日)　黙想会(募集中・2面参照)
3月　7日(土)　ロザリオの会
7日(土)～8日(日)　講習会「詩編の祈り」(募集中・2面参照)
21日(土)～22日(日)講習会「ゆるしの秘跡」(募集中・2面参照)

※お電話またはメールでお問合せください。
＊宗像市名残1056-1　☎0940・32・3222　FAX0940・32・3385
Email: f-mokuso@fmokuso.com

真命山諸宗教対話センター　－祈りの集い－

年間テーマ：「祈り」最高の神秘体験として
ご聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う
日　　時：2月13日(木) 10時～15時
内　　容：「キリストに生かされて生きる」
指　導　者：S.フランコ神父(聖ザベリオ宣教会)
問合わせ先：真命山諸宗教対話センター
次　　回：3月12日(木)「キリストとともに死ぬ」
☎0968・85・3100　FAX0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜻蛉浦1391-7・E-mail　shinmeizan@gmail.com

カテドラルでのゆるしの秘跡

日　時：2月8日(土)・22日(土)　10時～11時45分
3月7日(土)・21日(土)　10時～11時45分
場　所：カトリック大名町教会小聖堂

2月のこよみ

2日(日)　主の奉献　†マテオ山川辰幸(2002年 二日市教会)
3日(月)　福者ユスト高山右近殉教者
†A.テムペリーニ(2018年 ロザリオの園)
4日(火)　†G.ブレシュト(2019年 御受難修道会)
5日(水)　日本26聖人殉教者
9日(日)　年間第5主日
11日(火)　世界病者の日
†ペトロ髙木善行(2015年 久留米信愛女学院短期大学)
12日(水)　†ラウレンシオ岩永義人(2009年 今村教会)
13日(木)　†B.ウォード(2019年 御受難修道会)
15日(土)　福岡地区カトリック女性の会主催学びの会
16日(日)　年間第6主日
23日(日)　年間第7主日
26日(水)　灰の水曜日(大斎、小斎)
四旬節愛の献金(四旬節中)

【3月】
1日(日)　四旬節第1主日
教区信徒協主催講演会
4日(水)　†E.グリフィン(2014年 手取教会)
7日(土)　†ミカエル平田寛(2002年 門司教会)
8日(日)　四旬節第2主日
13日(金)　性虐待被害者のための祈りと償いの日

四旬節愛の献金(四旬節中)

教皇は毎年、四旬節に向けてメッセージを発表し、キリストを信じるすべての人が四旬節の精神をよく理解して、回心と愛のわざに励むよう呼びかけます。この呼びかけにこたえて日本のカトリック教会は、虐げられ、差別され、見捨てられ、いのちの危機にさらされている人たちとの共感を大切にするよう一人ひとりに訴えるとともに、四旬節中の「愛の献金」を奨励しています。(カトリック中央協議会HPより)

◆福岡

■聖霊による刷新福岡祈りの集い〔日時〕毎週月曜11時～12時半〔場所〕大名町教会1階〔内容〕賛美と感謝の祈り・聖書の分かち合い〔問合せ先〕☎092・521・2503蓮尾

■聖ドミニコ信徒会集会〔日時〕2月1・15日(土)15時～17時〔場所〕箱崎教会〔内容〕福音の分かち合い〔指導〕アントニオ李神父(ドミニコ会)〔問合せ先〕☎092・651・3867箱崎教会

■祈りの集い・「家庭の友」読書会〔日時〕2月8日(土)14時から〔場所〕聖パウロ修道会福岡修道院〔問合せ先〕☎092・541・3730松山※『家庭の友』持参

■ヨゼフ・メディナ神父様追悼ミサ〔日時〕2月10日(月)11時から〔場所〕大名町教会大聖堂〔司式〕S・オチョア神父(イエズス会)〔問合せ先〕☎080・1786・9250やすらぎ会※申込不要

■震災のための祈りのリレー〔日時〕2月11日(火)ミサ7時から／夕の祈り(テゼの祈り)17時から〔場所〕聖パウロ会福岡修道院〔問合せ先〕☎070・2820・9613 Br.阿部(パウロ会)

■レジオマリエ福岡クリア〔日時〕2月9日(日)14時から〔場所〕高宮教会〔問合せ先〕☎090・9654・9969日吉

■福岡チェナクルム(司祭のマリア運動)〔日時〕2月14日(金)10時ミサ後〔場所〕高宮教会〔指導〕パウロ神父(カプチン・フランシスコ修道会)〔問合せ先〕☎090・7468・3631西田

■第79回福岡典礼聖歌研修会〔日時〕2月16日(日)14時から〔場所〕大楠教会〔テーマ〕四旬節・聖週間〔講師〕深堀純氏〔参加費〕感謝献金〔問合せ先〕☎092・541・3730松山

■カルメル在世会集会〔日時〕2月17日(月)10時半～16時〔場所〕福岡女子カルメル会修道院・テレサの家〔内容〕ミサ・講話(カルメルの霊性)〔指導〕大瀬高司神父(カルメル会)〔問合せ先〕☎092・861・4802海江田

■グレゴリオ聖歌を歌う会〔日時〕2月18日(火)11時から〔場所〕聖クララ寮〔内容〕グレゴリオ聖歌ミサとベネディクション〔問合せ先〕☎096・380・5686堺

■福岡召命を共に祈る会〔日時〕2月18日(火)13時半から〔場所〕大名町教会〔内容〕ロザリオと分かち合い〔問合せ先〕☎092・921・4532山口

■師イエス祈り会〔日時〕2月21日(金)10時ミサ後〔場所〕高宮教会・小聖堂〔問合せ先〕☎090・7468・3631西田

■虹の会(子どもを亡くした親の会)〔日時〕2月22日(土)14時～16時〔場所〕サンパウロ福岡宣教センター3階〔参加費〕500円〔問合せ先〕☎090・1162・6395柴田

■聖霊によるいやしのセミナー〔日時〕2月24日(月)10時半～15時〔場所〕大名町教会〔内容〕賛美と祈り・講話・ミサ〔指導〕F・マッケイ神父(聖コロンバン会)※テキスト代500円、参加費自由献金〔問合せ先〕☎090・9722・3708蓮尾

■ラスキン黙想と祈りの集い(テゼの祈り)〔日時〕2月28日(金)19時45分から〔場所〕大名町教会小聖堂〔問合せ先〕☎070・2820・9613 Br.阿部(パウロ会)

■第4回山下神父様と共に読む聖書〔日時〕2月29日(土)13時半から〔場所〕福岡女子カルメル会修道院・テレサの家〔内容〕聖書講話〔指導〕山下敦神父(大分教区)〔問合せ先〕☎090・3985・2855近(ちか)

■美野島司牧センター
降りてきてくださる神様とともに働きましょう。◆ホームレスの方に手作りのお昼ごはん毎週火曜日10時◆ホームレス支援炊出し・夜回り毎週金曜日・調理14時／夜回り20時◆路上からアパートに入居した方を訪問第3土曜日　13時〔問合せ先〕☎092・431・1419M・コース神父

■ウルスラ祈りの集い(テゼの祈り)〔日時〕3月1日(日)16時から〔場所〕聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院〔問合せ先〕☎092・512・0033 Sr.蔵

◆北九州

■北九州召命を共に祈る会〔日時〕2月13日(木)14時から〔場所〕小倉教会〔内容〕ミサと茶話会〔問合せ先〕☎0949・24・9905藤井

■小倉祈りの集い〔日時〕2月28日(金)13時半～15時〔場所〕小倉教会信徒会館2階〔内容〕「みことばを味わう」賛美と感謝の祈り〔問合せ先〕☎090・3985・5209松田

◆熊本

■聖霊による刷新熊本祈りの集い〔日時〕毎週金曜日10時半～12時〔場所〕手取教会信徒会館〔問合せ先〕☎096・384・1693中川

■熊本地区召命を共に祈る会〔日時〕2月20日(木)10時から〔場所〕手取教会〔内容〕ミサと話し合い〔問合せ先〕☎096・368・2825健軍教会・浦川神父

司祭の異動

◆オブレート会司祭、吉塚・南粕屋教会管理者であったロビンソン・ロバート神父が個人的な理由により、司祭職を辞し、オブレート会を退会されたことをお知らせいたします。

お詫びと訂正

『福岡教区報』2020年1月号(第737号)の3面、「自由席」の投稿者の名前の表記に誤りがありました。謹んでお詫びし、訂正いたします。(誤)太山寛子→(正)太田寛子

福岡カルメル修道院より

ご案内。ご復活のローソクは昨年に引き続き、承っております。問合せ・注文は☎092・807・7361

編集後記

日々、主に心を向けて…。(C)

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール
薬院・油山・野芥・小田部・今宿
馬出・南福岡・大野城・飯塚
市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店　福岡メモリード　検索
0120-45-1616

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
医科・歯科臨床研修指定病院
地域医療支援病院
救命救急センター
総合周産期医療センター
がん診療連携拠点病院
地域災害拠点病院
一緒に働きませんか？
＝募集＝
医師・看護師・医療技術職
〒830-8543
福岡県久留米市津福本町422
TEL0942-35-3322(代表)
FAX0942-34-3115
http://www.st-mary-med.or.jp

NPO マザーハウス支援
マリアコーヒー(ルワンダ・コーヒー)
＊製造から販売まで、元受刑者が携わっております。
価格：粉 200g または豆 200g ＝ 900円＋税
カフェドリップ 10g(1回分) ＝ 100円＋税
FAX：03-6659-5270
メール：maria_coffee@motherhouse-jp.org
ホームページ：https://motherhouse-jp.org/

キリスト教書籍・用品
お買い物は365日、24時間　いつでもどうぞ！
http://www.paulus.jp
パウルスショップ
メディアによる福音宣教のために・・・
サンパウロ福岡宣教センター
10：00～18：00(月～土)／日・祝日休業／地下鉄赤坂駅より徒歩3分＊駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26　☎092-721-2032 fax.739-3930